

平成 27 年度 第 1 回 社会教育委員の会議 会議録

- 1 日 時 平成 27 年 7 月 16 日 (木) 10:00～11:15
- 2 場 所 函館市消防本部 2 階会議室
- 3 内 容  
(議題)  
(1) 平成 27 年度社会教育事業概要について  
(2) 2015 函館ハーフマラソン大会オフィシャル応援団について  
(3) 新規指定管理者施設について  
(4) 放送大学について
- 4 出席委員 14 名 (絹野委員, 竹崎委員, 福原委員, 滝澤委員, 西田委員, 外崎委員, 池田委員, 富樫委員, 竹内委員, 渡辺委員, 宍戸委員, 川口委員, 五十嵐委員, 風間委員)
- 5 欠席委員 1 名 (川嶋委員)
- 6 事務局出席者 6 名 (川村生涯学習部長, 佐藤生涯学習文化課長, 町谷スポーツ振興課長, 蛭子井文化財課長, 長島生涯学習文化課主査, 加地生涯学習文化課主事)

7 発言要旨

長島生涯学習  
文化課主査

只今から、平成 27 年度第 1 回社会教育委員の会議を開催いたします。  
初めに、委員に交替がありましたのでご紹介いたします。

函館青年サークル協議会からの推薦の<sup>かねはままさゆき</sup>金濱真敬委員に替わりまして、  
<sup>いけだたかみち</sup>池田孝道委員です。

続きまして、本日出席しております生涯学習部職員を紹介いたします。

(職員紹介)

それでは、生涯学習部長よりごあいさつを申し上げます。

川村生涯学習  
部長

(あいさつ)

(※生涯学習部長はここで退席)

長島生涯学習  
文化課主査

それでは、絹野委員長よりご挨拶をいただき、議事進行をお願いしたいと思います。

絹野委員長よろしく申し上げます。

絹野委員長	(あいさつ)  それでは、議事を進めさせていただきます。 議題(1)の「平成27年度社会教育事業について」ですが、事務局よりご説明願います。
佐藤生涯学習文化課長	今年度の社会教育事業について、生涯学習文化課から順に説明いたします。 (生涯学習文化課長から資料に基づき説明。)
絹野委員長	ここまでの説明に関して、何かご意見あるいはご質問等ございますか。
五十嵐委員	生涯学習文化課事業の6番目の文化芸術アウトリーチ事業でございますが、講師の方は、何名くらいいらっしゃいますか。
佐藤生涯学習文化課長	文化団体協議会に所属されている方々が全部対象です。例えば、お茶の分野ですと、茶道連盟の皆さんが講師というかたちになり、申し込みがあった際に、対応出来る方々で行くですとか、例えば今回は表千家の方達で行き、次回は裏千家の方が行くといったかたちになっているかと思っておりますので、おそらく文化団体協議会に所属していらっしゃる方は、沢山いらっしゃるかと思っております。
竹崎委員	色々な学校から要請がありましたら、文化団体協議会のトップの先生方は行ったださっているのですが、どうしても都合が悪ければ別な方が、もちろん資格のある方が指導に行っています。
五十嵐委員	公募しているわけではないのでしょうか。
佐藤生涯学習文化課長	あくまでも、文化団体協議会に運営を委託しているのです、その会員の方が講師になるということです。
五十嵐委員	わかりました。
絹野委員長	それでは、平成27年度社会教育事業概要2番以降についてまとめた説明をお願いします。まず、スポーツ振興課より説明をお願いします。
町谷スポーツ振興課長	(スポーツ振興課長から資料に基づき説明。)
絹野委員長	それでは引き続き、文化財課より説明をお願いします。
蛭子井文化財課長	(文化財課長から資料に基づき説明。)

絹野委員長	次，よろしくどうぞ。
佐藤生涯学習文化課長	(博物館，戸井・恵山・榎法華・南茅部の各教育事務所各種事業について，生涯学習文化課長より説明。)
絹野委員長	全体通して，どの分野からでも構いません。ご質問どうぞ。
竹内委員	スポーツ振興課にご質問です。6月にハーフマラソンを開催されたということですが，日程はスポーツ振興課で決められたのでしょうか。
町谷スポーツ振興課長	ハーフマラソンの開催時期を9月から6月に移行した経緯につきまして，ご説明いたします。 開催時期につきましては，市の教育委員会の他道南陸上競技協会も主催者になっておりまして，そちらの方と協議をしながら進めて行くのですが，やはり函館ハーフマラソン大会を全国的に知名度の高い大会にするためには，有名選手ですとか，実力のある選手，今回ですと青山学院大学の神野大地 <sup>かみのだいち</sup> さんに本来走っていただく予定だったのですが，怪我のため出場は叶わなかったのですが，そういう選手をまず呼んでこようというのが，まずありまして，そうした時に日本全国のレースを見たときに，北海道という気候を生かしつつ尚且つ，他の大会と重なりがなく，呼びやすい部分ということで策を練りまして，これまで過去24回9月に開催してはりましたが，あえて6月という運びとなりました。
竹内委員	奥尻の大会と重なっていたのではないのでしょうか。
町谷スポーツ振興課長	奥尻のムーンライトが当初の予定が，1週間か2週間早かったと聞いておりまして，ムーンライトはフルムーンの時に開催するらしく，奥尻が函館ハーフマラソン大会を追いかけてきたということで今回は，開催が重なったということでございます。
絹野委員長	私も，函館ハーフマラソン大会を手伝わさせていただきましたが，全国的に大阪ですとか東京ですとか色々なところから，観光を兼ねてそしてまた，気候も非常に良くて，コースも走りやすかったということで，非常に評判が良かったですね。来年もぜひ来ると，そういうお話もいただきましたのであわせてお知らせしたいと思います。 ほかご質問ございますか。
川口委員	世界遺産の登録と縄文のことについてお尋ねします。 急に阿部館長がいなくなりまして，本当に世界遺産の登録に向けて戦力になっていたかと思うのですが，今どこに行ったのかということと，縄文検定を一度南茅部でやったのですが，その後どうなっているかをお尋ねします。

蛭子井文化財課長	<p>まず、阿部元館長につきましては、本人のプライバシーの問題もありますが、現在は北海道の特別研究員ということで、縄文に限らず世界遺産の推進の研究員ということで、北海道にいらっしゃいます。後任につきましては、私の前任者でありました昨年の文化財課長の佐藤が縄文文化交流センターの館長ということで、現在同じ職責で世界遺産の推進に取り組んでいるといった状況でございます。</p> <p>縄文検定につきましては、私この4月に赴任しております、縄文の担当が佐藤現館長になりまして、過去の経緯は存じ上げておりません。もし宜しければ、お調べして後日お知らせしたいと思います。</p>
川口委員	<p>もう一つよろしいでしょうか。</p> <p>恵山郷土博物館が閉館になりましたが、資料等を博物館本館に持って行って、その倉庫の中にあるということなのですが、1回しまってしまい、なかなか目に触れないといえますか、価値がなくなるのではないかと。前に言いましたが、戸井にもありまして、戸井郷土資料館が相当老朽化しておりますが、恵山は建て替えるといった状況なのでしょうか。</p>
蛭子井文化財課長	<p>博物館の所管になりますので、詳細につきましては伺っておりませんが、博物館から聞いているところでは、恵山の方は閉館をするということ、そして資料等も博物館に引き上げているということです。博物館の展示につきましては、常に同じものを展示している訳ではなく、テーマに合わせて展示替えをしております。また、北方民族資料館もございまして、アイヌ系のものを展示しておりますが、そちらも展示物を入れ替えるなどをして、活用しているところでございます。物として埋もれてしまうということではございませんので、ご了承いただきたいと思っております。</p>
川口委員	<p>前にも話したことがあるのですが、戸井と恵山とそれから榎法華の資料もあるのですが、それらを榎法華にある灯台資料館に一括にまとめて、第2の縄文文化交流センターみたいなものにして、縄文の文化を全体に広めた方がいいのではという話をしたのですが、どうなったのでしょうか。</p>
蛭子井文化財課長	<p>前任で財産管理の課長をしております、その時に恵山郷土博物館も灯台資料館も見に行っていますが、恵山郷土博物館は下の方が空洞になっておりまして、かなり崩壊寸前のような建物ということで、閉館になったということでございます。灯台資料館も、灯台に関する資料がありまして、スペース的にもなかなか広くないイメージを持っていたので、少し役割が違うのかなというのはあるのですが、博物館の方にはそのようなお話があったということで、投げかけておきたいと思えます。</p>
川口委員	<p>なにか勿体ないですね。ずっと展示も一緒ですし、年間5千人程しか入場者もおりませんので、有効活用というか広く考えた方がいいのではないのでしょうか。</p>

蛭子井文化財課長	<p>楳法華教育事務所にも、このような話があったということでお伝えしたいと思います。</p>
絹野委員長	<p>よろしいでしょうか。他なにかございませんでしょうか。</p>
宍戸委員	<p>先ほど、函館フットボールパークのお話がありましたけれどもサッカー1件、ラグビー4件大きな大会を開催予定とのことでしたが、大会規模は全国大会レベルでしょうか。</p>
町谷スポーツ振興課長	<p>大会規模につきましては、道南地区予選と道大会規模になります。まだ、全国大会レベルでは入っておりません。</p>
絹野委員長	<p>他にございませんでしょうか。</p>
富樫委員	<p>説明を聞いて思ったのですが、一般市民という言葉で表されているのと、特に合併してきた町の事業の中に高齢者という言葉があるのですが、高齢者を主体とした生涯学習の各事業というのが、南茅部と楳法華の方に見られるのですが、函館市の高齢者の位置づけが、社会福祉協議会ですとか町会の方で教育の部分が会議で出てくるのですが、社会教育の事業の中での高齢者の位置づけが見えてこないで、どのように解釈すればよろしいでしょうか。</p>
佐藤生涯学習文化課長	<p>あくまでも、生涯学習・文化振興の分野と高齢福祉の分野に分かれておりました、富樫委員が今おっしゃっている保健福祉部で担当しているのは、あくまでも高齢福祉ですとか高齢者の健康づくりとかそういう面での事業だと思えますが、教育委員会は生涯学習ということですので、例えば高齢者大学につきましても、単純に身体を健康にするのではなく、生涯学習の場ということで教養知識を身につけていただいて、地域社会に還元していただくですとか、目的や機能が教育委員会で持っているものと、福祉系で持っているものとは違うと考えております。</p>
川口委員	<p>楳法華になるのですが、どちらかと言えばふれあい大学っていうのは地域であったり、高齢者の話もありましたけれども、函館と違って勉強をするという一般教養を身につけるといような流れではないですね。だから我々は参加したくないという感じですし、函館学講座をずっとやっていて、今もやっているかと思うのですが、あれは非常に勉強になって函館市の歴史を学ぶために毎回参加させてもらっていて、非常に良い取り組みだなと。ただ、地域が小さく不利なので、4町村を1つにしてバスもあるので、少し社会教育の力というものを地域で示さないといけないのではないかと思います。先ほど生涯学習部長が言いましたけれども、過疎化と高齢化で大変な人口減になって、この前市長と町会連合会でお話したのですが、あと10年経ったら町内会も組織としてやっていけなくなる時代になるのではないかと、きちんと考えなければならぬという話になりました。そういうことで考えると、10年前に合併しましたと、128年の歴史が閉じられてしまう、町内会を今1000人くらいですので1つに合併しようと思ったの</p>

です。その時も、まとまりきれなかったのです。そこでつくづく感じたのは、社会教育の充実性だと。現状はどうで、どうあるべきかというまちづくりの視点が社会教育の中で、訴えていかなければならないものだと非常に感じました。ジャン＝ジャック・ルソーの言葉なのですが、「教育とは、健全な地域社会と健全な人間を形成する最も大切なものである」というルソーの言葉があるのですが、そういうことを感じており、今日新聞にも出ておりましたが2060年大変な時代になってくると。やはり、人間力です。住民力といいますか、そういうものを高めるのは社会教育だと。本来の原点に返って、もっと地域社会の仕方を高めるための社会教育の充実をこれから図っていただきたいと思います。

佐藤生涯学習  
文化課長

わかりました。ただ、4町村の培ってきた歴史ですとか地域地域の特色もあるかと思いますが、よく耳にするのはイメージとして、旧函館市は函館市だと。例えば自分たちは、〇〇町だという感覚の若干のズレがあって、事業展開等する時にも、押しつけになってしまっても困りますので、教育事務所の所長等にもお話をしまして、地域性も考えたうえでそしてまた、これまで行ってきた事業の良いところを融合させて、今後の事業展開に反映させていきたいと考えております。

絹野委員長

他にございますか。

風間委員

今川口委員がおっしゃったお言葉の中に、「やって欲しい」ということはわかるのですが、できれば長い歴史の中で川口委員のような方が自らのところでやっていくというのが、社会教育のあり方だと私は思います。函館市にいますと、意外と函館市民はやっていただくことに、慣れきっているような気がするので自分たちでこういうことをやりたいということを出して、その中で行政がどこを手伝ってくれるのかを、熟成させるのが市民力だと考えます。自分たちで大事にしたかったら、自分たちから発しないとその地域は活性化しないのです。ただ、高齢化ですとか、諸説の問題、この間恵山に行き恵風に泊ってききましたが、とても自然の良さが本当に良い季節でしたからわかるのですが、あの良さはあそこに住んでいる人がきっと1番知っているはずなのですけれど、函館市って意外と住んでいる人が住んでいるところの良さをわかっていない。観光で訪れる方は、夜景ですとか西部地区が良いって言いますが、住んでいる私たちは売るポイントを少し安く見てしまっているから、市民のところから発するという精神を出した方が良いと思います。頼るのではなくて、自分から発することが大切だと思います。

川口委員

もちろん、自主自立が出来ない地域があるということも社会教育で強く引っ張って行って欲しいということなのです。もし、4町村で上の方から組織づくりをしましょうとなったら協力はします。これまで発してきても、ダメだったので合併になったのです。そういう地域事情があるのです。

風間委員

逆です。では、これから行政に期待して、でも自ら発していかないと社会教育は成り立たないと思います。以上です。

絹野委員長

他にございますか。

福原委員

生涯学習・社会教育について関わってきたのですが、重要なことは市民にとっての必要課題と要求課題の両方を学ぶことで、その地区で生まれ培ってきた社会教育事業というのは、必要課題より要求課題の方向に向きがちです。学校教育では、これからの21世紀の社会を子どもたちが生きぬいていくための、21世紀型の学力をつけていこうというような方向で、大きく変わってきました。そう考えると、生涯学習の方向もそのように変わっていかなければならないと思います。要するに、今まで以上に子どもたちが主体的に、能動的に学ぶ、アクティブ・ラーニングという方向に、大きく舵を取りました。それと同じように、市民が主体的に学ぶための条件や、市民が自発的、主体的に学んでいくようになっていくための前段階としての学習機会を作るといった、市民に必要な社会教育行政を行っていかねばならないのだと思います。一人一人が学ぼうという意識を持って頑張ってもらえるのも大事ですが、そのための環境整備や、自ら進んで学ぶことの価値を見つけられるところまでは、行政が引っ張っていかなければならないと思います。市民がまだ熟成していないのであれば、そこまでは持っていかなければならないのではないかというのが、川口委員さんのおっしゃったことなのかなと思いましたが、いかがでしょうか。せっかく文部科学省も学校教育では大きく舵を切りましたので、社会教育についてもそのような方向に持っていければと思います。言葉が生涯学習と切り替わったあたりから、生涯教育、社会教育行政がやや引き気味なのかなと思います。学ぶのは市民であり、学習者なのですが、そこへの行政の関わりがやや弱まっているように思います。なぜ社会教育課から生涯学習課と課の名前を変えたのか、一時期すごい議論になりました。なぜ社会教育から生涯学習に切り替わったのか、生涯学習という大きなカテゴリーの中での社会教育の果たす役割、そこをもう一度見直さなくてはいけないと主張されている社会教育行政の先輩もおります。社会教育へ寄せる期待、川口委員さんのご意見も汲んで考えていただきたいものと思いました。

絹野委員長

前向きなご意見いただきました。

他にございますか。それでは次に進めさせていただきます。

議事(2)の2015年函館ハーフマラソン大会オフィシャル応援団についてですが、事務局より説明願います。

長島生涯学習  
文化課主査

恐れ入りますが、ここでスポーツ振興課長と文化財課長については退席させていただきます。

佐藤生涯学習  
文化課長

では、引き続き議事(2)の2015年函館ハーフマラソン大会オフィシャル応援団についてお話させていただきます。

(生涯学習文化課長から資料に基づき説明)

絹野委員長

何かご質問等ございますか。

私も、競技場でずっと見ていましたが北海道大学水産学部大変だったなど。最

初から最後まで太鼓を叩いて、休まずゴールに入るまで。素晴らしく、良い応援になったなと思いましたけど、本人たちは大変でしたでしょうね。

絹野委員長

この議事については、よろしいですね。それでは次に行きます。  
議事（3）新規指定管理者施設について事務局より説明願います。

佐藤生涯学習  
文化課長

では、議事（3）の新規指定管理者施設についてご報告いたします。  
（生涯学習文化課長から資料に基づき説明）

絹野委員長

公民館も非常に綺麗になって、改築されて使いやすくなりましたよね。  
この議事について、何かご質問等ございますか。

五十嵐委員

4年後に、4施設が1つの建物の中に入ると聞いたのですが、やはり4年後なのですか。

佐藤生涯学習  
文化課長

その事業につきましては、生涯学習部の所管の3施設が統合の対象にはなっておりませんが、実際の所管は企画部で行っております。色々な計画等につきましても、企画部で行っております我々は、我々が持っている3施設について必要な情報提供をするですとか、そういったかたちで関わっておりますので、本当に具体的な詳細の部分というのは、決定したものが我々の方にもおりてくるということで、今色々利用者説明会を開いたりですとか、事業費、規模の積算ですとかそういうものは、今企画部で行っているという状況です。

絹野委員長

よろしいでしょうか。  
それでは、最後の議事（4）放送大学について事務局より説明願います。

佐藤生涯学習  
文化課長

では、議事（4）放送大学についてお話をさせていただきます。  
（生涯学習文化課長から資料に基づき説明）

絹野委員長

利用数を見ますと、移転後の青年センター5月がかなり増えていますね。知名度がどんどん広がれば、もっともっと数が増えるのではないかと思います。  
議事（4）について何かご質問等ございますか。

池田委員

青年センターの運営管理スタッフをやらせていただいているので、利用者の生の声を聞くことが出来るのですが、交通の利便性が良くなったことと、開館時間のことをよく言われます。移転前の函館大学では、夕方で閉まってしまうので仕事が終わってから行くことができなかったというお声が実際にありました。青年センターは夜10時までやっておりますので、そういったところで凄く助かっていますというお声をいただいております。一般の利用者も増えているのですが、北海道新聞のみなみ風に放送大学函館学習室が青年センターに移転しましたという記事を掲載していただいて、その記事を見てどんなものか来てみましたというお客様も結構いらっしゃって、未だにいらっしゃるんですけども、そのまま



法律に興味あるから聴いてみたい、見ていきたいということで常連さんになっていただいているという経緯もございます。今は、そういう状況で順調にしているなど思っております。

絹野委員長

他に議事（４）について、ご質問やご意見等ございませんか。  
なければ、全体通して何かございませんか。

福原委員

放送大学とは直接関係が無いのですが、放送大学自体も学習環境が整備されて受講者にとって大変良くなったということなのですが、もともとの青年活動といえますか、青年センター自体の活動としてはどんな状況ですか。活動が盛り上がっているのですとか、青年たちが力強くなってきたのですとか、その辺りお聞かせください。

池田委員

青年団体登録している団体というのは増えてきておりまして、青年登録出来る団体といいますのは、満15歳以上28歳以下の方勤労青少年が半数以上占める5名以上の団体ということで定義しているんですけども、そういった団体が減免で無料にて使用できるのですが、その団体は登録数が増えておりますし所属している人数も増えているので、今回9月に青年センターフェスティバルというイベントがありまして、そのステージの出演に関しましても、過去最高の団体数が出るということで、非常に活発に活動しております。

絹野委員長

他に何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の会議を終了します。皆様、お疲れ様でした。

以上、平成27年度第1回函館市社会教育委員の会議の会議録とする。

委員長 絹野重治